

# 解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（7・下）

—— 玄璣政さんへのインタビュー記録 ——

藤永 壯／高 正子／伊地知紀子／鄭 雅英／皇甫佳英  
高村竜平／村上尚子／福本 拓

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan  
from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (7) — Part II —  
— An Interview with HYUN Jongmin —

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung  
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko  
FUKUMOTO Taku

## 解放後、済州島での生活

——結婚なさったのは、<sup>チェジュド</sup>済州島ですか？日本ですか？

玄：私？日本に来て。

——じゃあ済州島では、ずっと畑仕事手伝って？

玄：うん。畑もあんまりせんかったな。特に嫌いやしね。向こうで病気がって往生した。  
밖거리 [離れの意の済州方言。標準語では바깥채] っていうてね。母屋とね、こっちの  
小さいところに私、住んでた、一人でね。飯もろくに食べんかったな。それが夜寝ると  
ね、風でね、木の泣く音、聞いたことないでしょう。昔はね、ものすごい風がね、きつ  
いの。吹いたら木が泣くねん。ヒューンって。それを夜中に一人でね、聞くわけ。日本  
で暮らしたことあるから、もっと哀愁があるわけ。風の音。今でも寂しいけれどもね。

——それで<sup>オモニ</sup>お母さんはどうしてたんですか？

玄：お母さんはそれ、また日本に行った。

——一緒に<sup>ソンセンニム</sup>濟州島に帰って、先生を置いて日本に行って？ また<sup>ヘニョ</sup>海女してたんですか？

玄：いえ、あのころはね、紙拾い。戦後はね、紙とかボロ拾いとかね、鉄なんかだってい  
かれる。鉄は要らん。この時はあの、お母さんは東京にいたんです。東京杉並。知り合  
いの家で。私も [日本に] 来てからね、東京に行ったけれども。

——日本に戻って来られることになったのは、どうしてなんですか？

玄：すべきこと何もないもの。とにかくね、向こうではおかしいんでね、財産っていうか、  
あんまりなかったけれども、みんな兄貴にやって、下の者にはくれへんねん。私、何も  
ないねん。希望も何もないわけ。まあ勉強でもやってたら、書堂 [朝鮮の伝統的な初等  
教育機関] の先生ってのも、あのころなれたかも分からんけどもね。そんなもないしね。  
結局生活ないんちゃうか。<sup>ササムサコン</sup>4・3事件が怖くてじゃなくて。

私が一番残念なことはね、北生野の環境での、トットナリのあの鶏小屋住んでた時に、  
一番上のほうに住んでいた人が、今亡くなってしまったけどね、三重高等農林学校 [現・  
三重大学生物資源学部] 出た。あのころ、大したもんやで。三重高等農林ちゅうたら。  
英語もそこでちょっと勉強したわけ。剣道も2, 3段、やったと思う。相当優秀やね。  
あの人が韓国に帰ってね。<sup>チョクサン</sup>敵産<sup>クアルリ</sup>\*<sup>9</sup>管理。敵産物の管理の<sup>チョジョヤン</sup>組長、をやってたらしいねん、  
そして私が行ったときに、偉い地位になったわけ。だって、トットナリオるときは、一  
緒に遊んだりね。ちょっと経済的に困った人やったから。私、剣道着の上のやつをどこ  
で仕入れたかわからないけど、相手にやったわけ、剣道やってたから。それで韓国行っ  
て、偉いさんなとるから。<sup>フサン</sup>釜山に行こうと思ったら、なかなか証明取れないんよ。こ  
の人のところ、一発で取れよんねん。それで訪ねて行ったわけ。そしたら碁を打って  
いたわけ、碁。人、何人もいて。大きな家でね。<sup>チョクサンクアルリ</sup>敵産管理の<sup>チョジョヤン</sup>組長やから、偉いさんや。

この人は<sup>ナムウォン</sup>南元の人や。なかなか来てくれへんから、私が出来たってことも、ぱっと見  
て分かったけどもね、来てくれへんねん。で、じっと座っていたわけ。するとなんか  
の方にこうやってたら、[碁を打ち] 終わってから「何しに来たんや？」って聞くから  
「<sup>フサン</sup>釜山行こうと思って来たけど、なかなか証明取れないから、証明書作ってくれ」って  
言うたら、途端に機嫌が悪くなってしまっ。あんなに親しくやってた人が、偉くなっ  
たから。

——<sup>チェジュ</sup>済州から<sup>フサン</sup>釜山に行くために証明を取ろうと？

玄：そうそう。この人は〔済州〕市に住んでいたわけ。<sup>チヨクサンクアルリ</sup>敵産管理の組長やからね。それで  
機嫌の悪い顔したから、私言うてん。「今度日本に〔行って戻って〕来たら、もっとよい物、  
おみやげもって来てあげる」ってこう言うたら、すぐね、証明がね、証明書貰ってくれた。

——それは49年の時の話ですか？

玄：うん、こっち出てくる前やから。

——それは密航ではなくって、正式にあの許可をもらって？

玄：違うねん、これは<sup>フサン</sup>釜山へ行くための。その時、日本に来る証明なんかあれへん。

——直接日本に行かれたわけじゃなくて、いったん<sup>フサン</sup>釜山に行って？

玄：<sup>フサン</sup>釜山行って、そっからヤミ船乗ってから来るわけ。

——<sup>フサン</sup>釜山までいくらくらいお金払ったんですか？

玄：分からん、忘れた。その時、ほとんど、わし金なかったな。

——じゃあ<sup>フサン</sup>釜山に行く時は、<sup>ソンサンポ</sup>城山浦からじゃなくて、<sup>チェジュハン</sup>済州港から？

玄：ああ、<sup>チェジュ</sup>済州ちゃうかな。そして<sup>チェジュシ</sup>済州市で1週間くらいいたな。私の従弟ね、うんと年  
下やけどね。そこで下宿したところに私は泊まっていたわけ。向こうの米食うてしまっ  
て、向こう困ったやろうね〈笑い〉。

## 密航して再び日本へ

——で、<sup>フサン</sup>釜山にどれくらい？

玄：<sup>フサン</sup>釜山ね。<sup>フサン</sup>釜山はちょっといたな。なかなか船が見つからんでね。

3日で〔日本に〕来るやつがね、1週間でもあかんで、10日くらいかかったわ。途中で  
水なくなっちまってね。もうみんな大変やね。

——ああ、船の中で。

玄：うん、四国で降ろされたわけ。四国の徳島あたり違うかな、どっかの港にな。

——食べる物は？

玄：船にちょっとあったやろけど、もう水がなくなっちゃまって。うん。

——<sup>フサン</sup>釜山のなんていう港から出たんですか？

玄：<sup>サムソン</sup>三聖ちゆう村 [現在の釜山広域市機張郡日光面三聖里]、<sup>サムソン</sup>三聖ちゆうところやった。

——どうやって、その日本に行く船に乗れるって分かるんですかね？

玄：それね、そういう人を組織する人がおるわけよ。プロがいたわけ。どっからいついつころ出る、っていう。みな買収していたんと違う？ だから堂々とね、何十人も乗せられるしね。出れるんや。

——<sup>チェジュド</sup>濟州島の人やなかったですか？

玄：うん。船の持ち主はひよっとしたら<sup>チェジュ</sup>濟州の人か分からんな。

——船長というか、動かす人は陸地の人やけど？

玄：うん、はっきりは分からんけど。だいたいね<sup>チェジュ</sup>濟州の人は、ああいう人多いねん。

——何人ぐらい乗ってました？

玄：そうやね、二十何人乗っていたな。小さい船でね。しょっちゅう、そうして密航する人がいたわけ。<sup>ボッタリ</sup>보따리 <sup>チャンス</sup>장수 [行商人] っていうてね、服なんか持って行ってね、商売する人がいたわけ。

——じゃあその船も、何かそういう商品とか乗せていたりしたんですか？

玄：そうやろね。いろいろな問題で<sup>トイ</sup>渡日するのもいたけど、商売で行ったり来たりする人もいたわけ。

——<sup>フサン</sup>釜山ですずっと船を待ってた？ <sup>フサン</sup>釜山で何かしようって考えはなくて？

玄：全然ない、もう日本に来たかった。

——<sup>チェジュド</sup>濟州島から日本に行く船はなかったんですか、

玄：あったやろうと思うよ。でも探しにくかったからね。<sup>フサン</sup>釜山の場合は多かってん。出航する船がね、日本へ。<sup>チェジュ</sup>濟州もあったと思うよ。

——密航するのにどれくらいお金を渡しましたか？

玄：そうやな。なんか800円渡したような気がするな。

——それはどうやって作った？

玄：私の叔父さんからもらった。うちのお父さん兄弟12人やからね。私のお父さん、上から4番目。男の子が5人で、女の子が7人、12人やねん。で、下から2番目の叔父さんが、800円、私のお母さんに貰ったっていうて、800円渡してくれた。

——お母さんから、預かっていたお金、日本のお金ですか？

玄：日本の金。私に渡せていうて、私のお母さんがね。その叔父さんは、いつもああい  
うな商売やる人やねん、行ったり来たりして。

——その人は、<sup>チエジュシ</sup>済州市にいたんですか？ <sup>チャグンアボジ</sup>叔父さんは？

玄：<sup>チャグンアボジ シンチョン</sup>叔父は新川。うちの村で同じ、

——<sup>シンチョン</sup>新川にしながら、そういう仕事を？

玄：うん、<sup>チエジュ</sup>済州、ま、行ったり来たり<sup>コッチャルチャンシ</sup>コッチャルチャンシ [標準語では<sup>コチヨルチャンス</sup>고철 장수。屑鉄商のこと] やってた。

——<sup>チャグンアボジ</sup>叔父さんはどういう品物を扱っていた？

玄：だいたい衣類とか、いろいろ違う？

——四国に着くっていうのは、知っていたんですか？

玄：分からなかった。二人で、<sup>コンゲ</sup>コンゲ [콩개역という豆の粉を溶いた食べ物のことか？] っていうて、豆のすぐ下ね、あれ持っていったわけ。

——コンゲ？

玄：はったい粉。水に溶かして飲むわけ。あれ、持って行ったからね。四国のね、田舎の家に行って、買い出しして困るとるからって言うて、一晚寝かしてくれた。そこで1回トイレ行ったわけ。おかしな家や。田舎やからか分からんけど、おしっこするところがこんなに長いねん。小学校のね、あのおしっこするところみたいなね。朝起きてね、わし上着持って行ったわけ。上着脱いで、この棚みたいなあったから置いたわけ。おしっ

こしてパッとあの上着みたらね、びっくりした。虱がいっぱい浮いて来とるねん。みんな潜んでいたわけ、上着の服に、<sup>チェジュド</sup>濟州島から。塩水が、塩の匂い嗅いでからな。船に長くいたから。びっくりしたがな。それで捨ててしまった〈笑い〉。

——虱がわいているというのは夏くらいですかね？

玄：そうやろな、夏やな。

——それが、日本で最初の1日てことで。じゃあ着いて、分かんないわけですよ、周り。

玄：着いて、宇野〔岡山県〕に来てね。徳島から宇野に来てね、汽車乗って、切符がね、あれへんねん。汽車の中で、寺田町でね、こう手挙げてね、降りたわけ。戦前には、よう手挙げて下りるねん〈笑い〉。あの時は縄張りがあったからね。卓球場がそこ〔寺田町〕にあってね、卓球したりね、ちょっとプロっぽいこと、やってたからね。ちょっと手を挙げて、こう降りるわけ〈笑い〉。普通やったら降りられへんがな。うん、切符出さんにゃ。

——自信があったわけですね、これ〔手を挙げて〕で降りるって？

玄：もう昔ようやったから。不良みたいなね。寺田町では、よう集まって遊んでたもん。

——船降りると、警察に捕まるかも知れないとかは言われなかったですか？

玄：そういうことはあんまり考えなかったな。考えたらできひんやん、ああいうこと。

——一緒に乗ってた20人くらいは、もう散らばるわけ？

玄：駅で見ても、もうみんな知らんぷり。

——四国に着いたんだったら、宇野に行くまでも船に乗らないと。それはどういう？

玄：どういうか分からん〈笑い〉。そう、とにかくね、大阪に入る。

——聞くわけですか、人に？ 四国って、どこに着いたかも？

玄：いや、四国はよう知とるねん、私。徳島県の撫養で兄貴が亡くなったからな。そうじゃなくてもね、高知県の中村ってところにいたこともあるねん、戦前に。

——なんで中村ってところに？

玄：お米買いに、あそこまで。

## 東京での暮らし

——で、大阪に着かれた後は、どうなさいました？

玄：うん、<sup>コモ</sup>伯母の家行った、お父さんの姉さん。なんせ信じたけれどもね、息子がゴム工場してね、相当儲けたころやねん。<sup>コモ</sup>伯母一銭もくれなかったな。

——何ゴムっていう？

玄：何ゴムかな。そのときは、高山っていうてたけどね。あのころは、だいたい化成って言葉を使ってたな。この人の、いわゆる、2番目の息子が大した男なんですよ。東和プロレスのね、今里で経営やっていたわけ。

——大阪にはどれくらいおられてから、東京に行かれたんですか？

玄：すぐ行ったな。お母さんの所に。杉並の方南町っていう所。李王殿下\*<sup>10</sup>のね、家の近く。この時ね、一番私今でも心に残ることが一つあるわけ。[日本に] 来てからね、猪飼野に、私の従兄弟がいた、お父さんの姉さんの子ども。親しかったから、私と従兄弟と。それで日の丸館という映画館があるわけ。猪飼野の中6丁目あたりやろうね。

その前に玉突き屋ちゅうのがあります。しょっちゅうその辺で遊んだ。久しぶりでそこ行ったわけ、一人で行ったらね、小学校の友達が会うたわけ。松尾っていう子やねん。下の名前はわからへん。[小学校時代に]一緒に座ったこともあるし。その時ね、徳山[玄璣政さん]の言うことやったら何でも聞くから、連れて行ってくれっていうわけ。

——どこにですか？

玄：私が行くところへ。どこでもついて行くってわけ。人望、が[あって] そうなった、関係なくて。結局一緒に座ったこともあって、なんか親しみやすくて、頼りがいがちょっとあったんちゃうか。

もの頼むやつ断ったわけ。私、今来たところやのに、東西南北どこ、どうなっとるか分からんし、お母さんが東京におるってことも知っていたけども、そんなことはでけへんって。そうしたら、すごく淋しそうな顔してね。今でも会いたいね。

——それっきりなんですか、松尾さんとは？

玄：それっきりやね。探してくれたら、私お金あげるわ〈笑い〉。御幸森小学校出てね、都島工業行ったわけ、あの子は。御幸森小学校行って聞いたらね、焼けてしまって名簿

がないわけ。武田和男先生にも会いたいわけ。あの4年から5年から6年まで教えてもらった。生野高校出身で生野中学出身。そして先生なつとるねん。この先生も今、87、8になつとるん違うかな。松尾ちゅう子も会いたいけれどもね、会う方法もない。背の小さくて顔の黒い子やった。ものすごい人なつっこいでね。いつも学校の時でも後ろついて歩いたりね。そして久しぶりに日の丸館<sup>お</sup>で会うたからね。断るのも大変やったけど。今来たところやし。

——東京ではどうされてました？

玄：東京ではね、ニコヨン [日雇い労働者] っちゅう、あのころは、ニコヨンがはやっていたわけ。240円で [職業] 安定所で商売してるわけ。そして、あの土堀りとかね、トラック乗ってから次運んだりね。つらかったよ。冬は。トラック乗った時、冬はものすごく痛かった。オーバーかぶってね。オーバーて言うても、変なオーバーやけどね。

——それで現場に行くわけですか？

玄：道路 [工事] すんでから [次の] 道路 [工事] していくわけ。

——一緒に行く人は、同じ同胞の人？

玄：おるおる。おるし、日本人も多いしね、ニコヨンについては。

——東京ではずっとそういう生活を？

玄：うん、ずっとやったな。港南町 [港区港南] にね、ちょっと土地借りてからね、バラックの家を建てたわけ。そこにね、運良かったかどうかわからんけどもね、創価学会が入って来た。創価学会はそこ全部買い取って、高等学校を作るっていうてね<sup>1)</sup>。あの時は創価学会の力はものすごく弱かってん。今では強いけれども。強制的にね、追い出されみたいな。そんでその時、30万もらった。バラックの家やったけども、うちの家はね。

——で、どこに行かれたんですか？

玄：30万そっくり返しましてん [損をしました]。パチンコ屋の景品買い。埼玉県の大宮っていうところだね。パチンコ屋の景品買いをやったら儲かるっていうてね、30万円あげた [渡す] わけやねん。裏にはやくざがいて、ランクつけて、この家はいくらって、こ

---

1) 実際には、創価中学校・高等学校は1968年に東京都小平市で開校している。



うなるわけ。うちもね、2番目くらいランクでね、30万でやったわけ。それがね、ちょっと離れたところいうてね、全然客が入らないところに回されてしまったわけ。もうどうにもなれへんねん。パチンコ屋ジュークって、建物見たけれども、よいパチンコ屋やねん。ここやったら30万悪くないと思ってやったところが、結局ここがあかんっていうことでね。もう完全に30万円損した。客来んから。

——景品買いのそこに入るために30万円使うわけですか？ それは、違法でしたでしょ？

玄：違法でもね、みんなやったものね。

——どこに住んでいたんですか？

玄：あそこや、小石川や。

——それ、借りられて、また？

玄：うん。それから。文京区の水道橋、飯田橋の近くやね。文京区の1の1という所があるねん。聞いたらびっくりするやろうが、ちょうど競輪場 [旧後樂園競輪場] があって、その横に大きなバタ屋があるの。バタ屋って知っとる？ ゴミ集める所。リヤカー引いてから、ゴミよ、ああいうな所やねん。それが1の1やねん。そこにな、変な家、住んでいてな。

### 結婚、そして安住の地を求めて

玄：もう方々ね、日本全国みんな回った。北海道も行ったしね、宮城、仙台とか。

——何の商売なんですか？

玄：宮城県のね、あの、近くの鹿島台っていうところ、いや、近くの松山町 [現在は大崎市の一部] やね。そこで、お酒の商売やってたんです。焼酎作ってた。そこで引っ掛かって放り込まれてね。40日も入ってた、私。拘置所に。

——どうしてそこに行くことになったんですか？

玄：仙台？ お母さんが先ね、知り合いが向こうで焼酎の商売やっとなるから、焼酎搾りの。

——お母さんと二人で。何歳の時、結婚されたんですか？

玄：私，22歳のとき。

——奥さんと二人で行かれたんですか？ 宮城。

玄：宮城？ 奥さんがね，大阪から買い出しに来てたわけ，宮城に。それで知り合いになってから，一緒になったわけ，うん。22あたりで結婚したな。23で長男産んだから。

——宮城に行かれたのも，22歳ぐらい？

玄：うん，そのころやな。あ，ちょっと待ってや。宮城行ったのはな，もっと後。宮城行ったのは，[昭和] 24，5年 [1949，50年] あたり。そうや，26年に朝鮮戦争やろ？

——昭和25年です。

玄：25年にね。なぜ，そのさっき言うたら，宮城県の松山町ちゅうとこ行った時に，警察官が入ってきたわけ。朝鮮戦争勃発と同時に。心境を聞きにきたわけ。

——心境どうやと？ 朝鮮戦争で？

玄：もう関係ないって言うたら，そのまま帰ってしまったけれど，だから思い出すねん。

——どうして警察が分かってたんですか？

玄：すぐ分かるがな，警察は。ものすごい田舎やのに。韓国人も何人もおらへんもん。わしと二人くらい違うか？ この宮城県松山町っていうところは。

——朝鮮戦争が勃発するころに結婚されたんですね。49年に [宮城県松山町へ] 来ましたよね？ 21歳の時に来ましたよね？ 1年くらいして結婚したんですか？

玄：そうやな。

——朝鮮戦争の後に結婚をして，それで，焼酎搾りで捕まったのは，結婚した後ですか？

玄：結婚した後や。うん……家内が大騒ぎした。

——宮城県に行かれてから，大阪から来られた女性と出会われて，で，結婚した，宮城県で？

玄：うん。あれ [奥さんのこと]，商売やってたから。と言うのはね，宮城県のその松山町っていうところに，あれの従兄弟がいたわけ。お金を貸していたわけ，うちの家内が。5万円ほど貸して，その借金取りに来て 〈笑い〉，私と出会った。

——その焼酎搾りとは関係ないんですか、従兄弟さんは？

玄：従兄弟は焼酎搾りせんと、ただ遊んで向こうで暮らしてた。

——奥さんは済州島出身の方ですか？

玄：うん、済州島。この人は、細花里<sup>セファリ</sup>ってところ。この人は戦後行ったわけ、日本に。

お母さんが東京住んでたから、御徒町に。お母さんがね、御徒町で再婚してね。お母さんを訪ねてきたわけ。家内は18歳のときに来とると思う。私より一つ下やから、20歳のとき結婚してんな、家内は。そうやったら18に来とるか分かんないな。

——〔奥さんは〕30年〔1930年〕生まれですか？

玄：30年生まれ。午年。

——長男は何年生まれですか？

玄：〔昭和〕26年生まれやな、長男。

——1951年生まれですね。〔玄さんが〕23歳ですね。じゃあ長男は宮城で生まれた？

玄：うん、宮城県。

——この宮城県では何人まで生まれたんですか？

玄：長男だけ。哲豪<sup>チヨルホ</sup>。長女はな、これ、東京で産んどんねん。東京の小柴で産んどる。

——焼酎搾りは、なんで捕まったんですか？

玄：焼酎搾りのこと？ 米を仕入れて、麴に入れて。蒸溜かなんかして。倉の中に入れてたり。昔のね、防空壕みたいのところ。田舎じゃなくてもいいのにね。芋入れたり、さつまいも<sup>サツマイモ</sup>を入れたり、いろいろ防空壕使いますねん、その中で。

——作った焼酎はどこに持っていったんですか？

玄：買いに来るしね、鳴子温泉ちゅうところ行ってね。鳴子温泉とか川渡温泉<sup>かわたび</sup>とか〔いずれも旧・鳴子町、現在は大崎市に所在〕。

——どうやって持ってそこに運びました？

玄：昔のこうして湯たんぼのね、あれで、入れて。ゴムのね、やつもあります。

——それ、そのまま売るんですか？

玄：そうそう。いや、入れ物は持って帰るの。また入れなあかんから。

——いくらで売っていたか覚えてます？

玄：分かん。とにかくね、夜のね、田んぼの中の大きな倉の中に入るからね、帰りがとても寂しいねん。田舎はね、空が高くね、星の光がね、きれいの。もう高くて、気持ちよくてね。嫁さんと一緒に帰りにね、嫁さんが急にね、東京へ帰りたいて言うねん、このまま。帰りたいてことは、いわゆる、……まあ別れようってこと。悲しかったよー、本当に。だってあれもね、東京にね、上野にある御徒町にまあ、母親がいたしね。本当は寂しかったと思うわ。だって危険やしね。あんまり儲からんしね。帰る、言い出したから、私も悲しくてね。

——一緒に帰りましょうじゃなくて？〈笑い〉

玄：そうやね。

——それを引き留めて？

玄：いや、ちゃうねん、引き留めなかった〈笑い〉。帰ってね、向こうが来よった。

自分の嫁さんとか言うの、なんやけどね。すごくいい女。もう何回も言いたい。家内のこと、夜寝てもね、常にね、1回夢見たわ。私ね、家内の病院、1回も泊まったことない。病院入院した時。私あかんねん、そんな状態の悪いのに。そして亡くなった時も、意識があって、亡くなったと思う。その時、すごく恨んだと思うよ、うん。

——夜に、夜中に亡くなったんですか？

玄：夜にね、夢みたらね、ちょっと見たら、お母ちゃんやねん。言ったら、体全体が冷たくてね。横にね、真っ裸で私のそばで寝とる。私、夢でね、ああ、お母ちゃん怒っとなって私は思っ。この間ね、墓参りした。いつも車で行ったけれども、電車で行った。電車で行って、お母ちゃんって言って、わしも来るよって言って。

——恋愛で結婚されたんですか？

玄：うーん、まあ恋愛かいな。向こうで、田舎で貰<sup>もら</sup>うたからな。

——焼酎搾りをして、捕まってからこれは危ないっていうて、東京に戻ったんですか？

玄：東京行ってね。北海道も行った。家内も北海道行きましたよ。

——一緒にいったんですか？ その後？

玄：後からついて来よった。

——何歳のときに行かれたんですかね、北海道は？

玄：えっとね、焼酎のなんか捕まった後やったからね。わしね、29歳の時、東京からな、大阪に来たんやな。北海道行ったのはね、東京から行った。宮城県じゃなくて。

——子どもたちも連れて？

玄：ううん、わたし一人で。だって家内、後から子どもね、長男。その時子ども一人しかいない時やから。

——どうして北海道に行くことに？

玄：向こうのほうが商売なったん違う？ と言うのはね、北海道の釧路やからね。ものすごい漁船が多いねん。漁船がいて。夏になるとね、もう屋台がね、海岸にずらりっと並んでね。

——釧路に、済州島出身の人は？

玄：おりましたよ。

——パチンコ屋さんで成功した人がいて1カ所、済州島の人ばかりいるっていうふうに聞いたんですけど。

玄：新善マーケットってちゅうところあたりに、ものすごいパチンコ屋を経営する家族がおりました。今、どうなっとるかわからん。相当昔のことやから。今でも大丈夫違う？ パチンコやから。また、あの辺ね、ものすごいパチンコ好きな人多いねん。

——何ていう名前の店か、覚えてはります？

玄：うん、まず一つだけ覚えとる。トウラクちゅう店。漢字、ミチのラク。もう、ものすごいパチンコ屋多い。まあ小さいとこやからね、うん。市の中心部にね、うん。

——この「道楽」は済州島チェジュドの人？

玄：<sup>チェジュ</sup>濟州の人。<sup>クジャミョン</sup>旧左面の人って聞いたけどね。まあ、パチンコしたし、それでちょっと勤めたこともあるし。

——「道楽」で勤めてはったんですか？

玄：いや。北海道からね、やっぱり東京に戻るとるね。それで、東京から私一人で大阪に来たわけ。この時は、子どもがね、二人で来たわけ。長女と長男と、二人。

——長女はじゃあ東京で？

玄：うん、東京で。小柴で生んだ。

## 大阪に戻って

玄：それで私、[大阪で] 風船屋で働いたわけ。風船ってエビ風船っていうてね、プーッと膨らまして、風船。

——はあはあ、甲子園なんかでやる？

玄：そうそう、長いやつ。東京で働いていて、[大阪に行って] ふた月くらい経って家内呼んだわけ。家内呼んで大阪駅行っただけ。迎えに行ったらね。もう見られへんねや。お母さんね、<sup>ち</sup>小んまい長女おぶって、長男手つないでね。あの時は4月あたりと思うねん。毛糸の丸首の毛糸シャツ着てね、ダラーンとね。哀れやったわ。私もあないな格好で行ったけれども。そして巽のちょっと親戚みたいな家やったけども、2階の6畳部屋でね。

——大阪に戻って来られようと思ったのはどうして？

玄：ほんと大阪、安住の地やねん、私のね。小学校の時も大阪いたしね。知り合いも多いしね。村の人も。そして戻って来て、下の風船やったからね。風船やって働いてて、東成区のプラスチックをやった。あの当時はね、金型に粉を入れて、カーッとしめて、戻して、この下のをばらしてね、あのアメリカにクリスマスツリーの飾り、あれを作っていたわけや。それがね、殻いっぱいたまるの。それをひと月運んでくれたら500円くれるって言うたから。ひと月経って給料日、500円くれへんねや。くれへんからね、言うたわけ。最初くれるって言うたのにね、「おまえ500円貰うのか」って言うねん、この社長が。貰うよって。約束したんやから。毎日運んだがな。そして貰って、それで辞めたけどね。

その時にね、私が皮膚が弱い。そうしたら、ここにいっぱい、あれができたわけ、汗疹。ものすごい痒いねん。そして自転車乗ってね、風あたらたらね、ものすごい気持ちいいわけ。そして家帰ったらまた痒いの。そしたら家内が、「お父さん、塩塗ればいい」って言うて、塩塗ったわけ。半分死にかけたがな、痒いのは止まったけれども、痛いねん〈笑い〉。そして、2階、住んでいたけれどもね、6畳間。階段、靴下にも、いっぱい粉ついた、そんなんで上るから、家主さんが怒ってね。「ちょっと静かに歩かんか！」って。

—その家主さんは、さっきの風船屋？

玄：うん、風船屋。風船、作るほうや。その時はね、そういうのは辞めてしまったわけやね、下の工場でやっていたけれどもね。

—その人はチェジュド済州島の人ですか？

玄：チェジュド済州島。シンサンリ新山里の人。この人亡くなったけれども。

—いろいろなところへ行かはったけれども、最終的にはやっぱり大阪で住みたいと思っ  
て？

玄：そう。あの、うちの家内が今度は、革ジャンパーをちょっと縫っていたわけ。それ、舍利寺で住んでいた時やね。ここは2度目。1軒目は借家住んでいてね、いやいや借家じゃなくて、2階を6畳の間借りやうていうてね。そしてそこへ舍利寺の家、あの、権利買って住んでいてね、そしてここ来たけれどもね。

—奥さんはジャンパー縫ったり？

玄：うん。そして家で革のジャンパー縫ったりやうてたわけ。全然「縫い方」知らないのにね、職人雇ってやうたけれども。革がこんなごっつい「厚い」から、針ボーボー折れるわけ。針買うて来いっていうわけ。家内に聞いたらね、針買われへんで、じーって立っていたらしいねん。で、隣のおばあちゃんが、なんで立っとるねん。針買うて来いって言うて、金ないし、こうやって立ってますねんって言うたら、お金200円貸してくれたって。案外困っててん。これも家内から聞いた話。後から聞いた話。そんなね、愚痴をあんまり言わないねん、辛いこと。

—家で内職されてたわけじゃなくて？ どこかに構えてた？

玄：ミシン入れて、縫ってたわけ。一人雇ったんやん。

——それは舍利寺の家で？

玄：うん、舍利寺の家で。わしは全然経験ないから、やる人を雇って、習いながら。自分で初めて経営したのが、ミシンやねん。

——ミシンを、何台くらい入れてはったんですか？

玄：最初2台。

——それって最初大きいお金要りますよね？ 頼母子<sup>い</sup> (◎-\*15) かなんか、してはったんですか？

玄：頼母子はやったな。そうや、あの時、頼母子ものすごい激しい時やった。

——舍利寺の家に行ったときは、もう子どもさん何人でしたか？

玄：えっとこの時は幸子〔次女〕産んどるねん。うん、この家で産んどるねん。

——この間、お母さんはずっとどこに住んでらした？

玄：一緒に住んでおった。私のお母さん？ 一緒に住んでいたんです。北海道に行った時はお母さん行ってないねん。お母さんは東京にいた。それで結局はこの家に来てね、お母さんは国帰ったわけ。64年か65年に国帰ったと思うよ。と言うのはね、お母ちゃん、早よ帰りたいかった。向こうの長男が、私の兄貴がね、体の具合が悪かったんです。それで〔65年生まれの三男の〕お産して帰ればよかったのにならぬ、お産前に帰った。築港でね、小さい船で帰ってたわ。私、車積んでいった。ポンポン船やね、大型客船じゃなくて。

——ポンポン船で？ それはじゃあもう、正規じゃないですね。ヤミの船〔密航船〕ですか？

玄：ヤミになるんかな？ 何も証明なかったな。その時はそんなん多かったと違う？

——1962年にここに来たんですか？ 60年に舍利寺の家で長女産んでいるから……舍利寺の家では1年か2年暮して、で、革ジャンパーはこの家でもやってたんですか？

玄：うん、それで、革ジャンパーと鞆をやったわけ。学生鞆。レールライン。その時は、私もだいぶ慣れていたしね。大勢使っていたな。6、7人使っていたな。ミシンとか、下張りする人とか。同胞<sup>トンボ</sup>の人、一人か二人いたな。あとは日本の人。



——革は、どうやって調達してるんです？

玄：いや、違うねん。革ジャンパーの場合はな、問屋から持ってくるわけ。縫製してって。

鞆の場合はそうや。みんな持ってきて、材料だけ持ってきて、する。

——問屋はどこにあったんですか？

玄：大阪。今里、横竹〔という鞆問屋〕とかね。

——それは済州<sup>チェジュ</sup>の人がやってはったんですか？

玄：いや、日本の大きな鞆屋さん。

——日本の鞆屋さん？ どうやってそこから仕入れるように探したんですか？

玄：いやいや、行って仕事くれって言うたら、くれるんやから〈笑い〉。そんな難しいことあれへん。仕事しっかりやればね。

——最初の、革ジャンパーっていうのはどうやったんですか？

玄：あれはね、職人呼んできて、私は全然知らんねん。舍利寺でやったころはな。

——なんで革ジャンパーをしようという気になったんですか？

玄：あのころね、ものすごく流行したのね、革ジャンパー。韓国行っても、ものすごく売れた。今は韓国でもよい物作りよる。あの当時はね、韓国ないねん。ものすごく高く売れる。

——じゃあ韓国にも輸出？

玄：いや、わしは下請けやからね。自分で売れない、あれは。ちゃんと納めなあかんから。

——じゃあ納める会社の名前とか覚えてますか、革ジャンパーの？

玄：革ジャンパー？ あの、岡本っていうてね、舍利寺に。これ、<sup>ビョン</sup>表善の人。その後ね、自分でね、そのルールライン、その作ってね、自分で製造してね、2年くらいやったな。網中ちゅうとこに納めてた、鞆問屋のね。

——ルールラインというのは？

玄：学生鞆。もう縫製してね。2年くらいやったけれども、学生たちがその鞆を持たなく

なったわけ。みな袋も持ったりね、手提げ持ったりね、学生鞆持たなくなった。

——で、今度どうしたんですか？

玄：それからやったのがね、塗装。塗装はね、あそこね、履き物の塗装。底、底あるやろ。プラスチックで成型しますがな。その周りを塗装するわけ。色塗るわけ。大きなブースを作ってね。ブースと言うたら、ゴミを吸い上げる所。それで並べてからね、こうして塗っていくわけ。ゴミ場で乾燥さしてね、箱詰めしてね。

——じゃあ、またそれ用の機械を買われたわけですね？

玄：うん。これは東大阪で、東大阪洪川ちゅうところでね、工場でね、やりました。

——塗装の仕事は、またどなたか紹介してくれる人がおったんですか？

玄：いや、もう見よう見まねでね。ものすごい、履きものすごかったからな。底みたいなもん、みんな塗装したやつやねん。プラスチック塗装したやつ、うん。

——近所に同じ村の人が多とかはないですか？ 交流とかあんまりないですか？ 親睦会とか？

玄：昔あった。ほんで今写真見たらびっくりするけどもね。7, 80人がね、大阪はね、あそこ、親睦会ものすごい流行しててん。バスでね、大阪城やらみさき公園 [大阪府泉南郡岬町にある南海電鉄が経営する遊園地] やら、あっちこっち行った。奈良とかね。海もよう行ったしね。

——60年代ですね？

玄：それがね、すごかったよ。今は親睦会あれへんねん。ほとんどの村がないねんな。みんなやっていたけども。

——いつごろくらいまでやりました？

玄：そうやな、もう10年くらいなるやろうな。結婚式なんかでも、人よう集まったけど今全然そんなことあれへん。家族だけでやるな。

## 建青への参加

——あと何か団体に所属されてたとかありますか？ 総連とか民団とかって。

玄：民団に入ってた。総連やったことないけれども。

私ら、建青時代からいたから。朝鮮建国〔促進〕青年同盟\*<sup>11</sup>。あの生中〔生野中学〕のところのいわゆる、衛生会館〔当時の生野保健所〕が。あれが建青の本部やった。前にあの、分からん、あとから中之島の、あの朝鮮銀行のところにね。あれが建青本部やった。その当時から私はね、促進同盟では活動していたわけ。

——どうして入られたんですか？

玄：あの当時はね、友だちなんかいっぱい入ったから、あそこに。

——建青の創立大会みたいな様子ってのは覚えてはりますか？

玄：うーん。福男<sup>ボンナミ</sup>っちゅう人が初代の委員長やでね。房福男<sup>バンボンナミ</sup>。あれが初代の委員長。あの人のね、妹がね、おりますわ。

——民団の結成大会なんかも参加されましたか？

玄：行ったやろうね、うん。後から、朝鮮銀行でやるとときは、みんな大きかったな。あのころは。生野から、向こう行ったときにね。

——どんなことされてました、建青だと。建青でなんか活動するとか、集まるとか？

玄：私はね、建設部やった。なんの建設か分からん、文化っていうたら分かるとるけどね。そんなんあれよ。ただ出るだけ、出て騒ぐだけ。

——祖国建設ですよ？ この「建設」はね。

玄：そうやろうね、うん。

——当時、民青<sup>⑥-\*29</sup>とかもありましたけれど、民青とぶつかったりとか、そういうことは？

玄：民青じゃなくて、朝連<sup>⑤-\*11</sup>。あったなー。朝連のね、強いやつらがね、あの衛生会館の促進同盟のところにね、来てからね、大変やってん。柔道ばかり強い人が集まって来たわけ、朝連のね〈笑い〉。なんかいろいろ強い人がいっぱいいてん、昔のね、朝

総連のね。あれは強かったからな。もう建青の人はビクビクやってたわけ〈笑い〉。

——建青は何支部になるんですか？

玄：あの、ぼくは〔大阪府〕本部やってん。

——濟州島の人も多かったですか？

玄：多かったね。まあいずれにしてもあの当時はね、朝連が強かった。ほんまに、建青って同盟はね、本当に一握りやね。

——どうしてその建青の方に入ったんですか？

玄：もともとね、思想的に私はそうやねんね、昔から。うん。絶対に左寄りではなかったな。

——〔4・3事件の時〕山に入った人たちの話を聞くこともあるじゃないですか、村にはいなくても。

玄：山にね、まあ薪をあげたり、いろいろやったけれどもね、そんなにいなかったよ。ただね、大騒ぎしただけやねん。あの、なんか下の人たちはね、死んだ人間はね、大勢、もう何の関係もない人が死んどる。……いずれにせよ、思想的にはね、まあ育った環境とかね、だいたいこういうもんでね。学んだこと、見たことによって人間の気持ちは変わってくるわけやね。それで決めるわけ。わしは、全然左の気持ちはなかった。

——例えば警察に住人が即決処分されたのを見ても、それは悪いことなんじゃないかっていう思いは？

玄：それは憤慨するけれども、微力やからね。いくら叫んでもね、だめや、そんなもん。それは、濟州島の時でもカンカンになる人はいっぱいいたけれども、見えないもの、そういうなのは。……思想ちゅうのはね、自然に作りあげるものやねん。北朝鮮みたいにね、もう徹底的にああいうのね、教育よりもね。あれは違うねん。自然に生み出すもの、思想ちゅうもんは。あんたたちはどういふな気持ちか分からんけれどもね。

——トットナリの人たちって、朝連に行った人多かったでしょ？ 貧しかったから。

玄：うーん、そんなことない。うん、トットのはね、人情味があつてね、非常にね、隣人を愛しね、よい人たちやった、みんな。

そして、今

——トットナリにいた時に、アボジの<sup>チエサ</sup>祭祀〔法事〕とかしなかったですか？

玄：祭祀ね、トットナリでやった。ずっとやった。私の兄貴のね、下の兄貴の<sup>チエサ</sup>祭祀もしたよ。ずっとやってね。家内が亡くなるね、5、6年前から辞めた。と言うのはね、済州でやるとるから。兄貴の法事は、兄貴の法事とお父さんの法事をずっとやってたけれども、私の兄貴の法事は兄貴の下の息子がやるとるねん。

——<sup>ヤンジャ</sup>養子？

玄：うん、<sup>ヤンジャ</sup>養子ね。お父さんの法事はね、長男の子ども、いわゆる孫がやるとるわけ。

——トットナリにいてる時に、どんなものあげて<sup>チエサ</sup>祭祀してたんですか？

玄：ううん。もうほんとに、食わんとね、魚あげてやるだけや。うんアマダイとか、肉とか、コンナムル〔大豆もやしの和え物〕とかね、もやしとか、あの<sup>わらび</sup>蕨か？ <sup>コサリ</sup>蕨ね。あんなもんだ。餅あげなかったな。ここに来てからな、初めてようやった。この家来て。

——それまでは、奥さんと結婚してても、結局どこ行っても、<sup>チエサ</sup>だいたい祭祀はやってた？

玄：ずっとやってた。それでなんかいな、お母さんが帰ったあとでも家内がやりおったわ。

——おつゆは？

玄：スープあるよ、わかめスープ。今はな、正月と8月とな、私ちょっとやってないねん、家で。家内が亡くなってもう、山のね、生駒霊園行ってやるとるねん。お墓の所で。子どもたち、みんな行って。法事だけは、4月7日の法事だけは、家で1回だけやるわけ。その以外は、正月とか、8月盆とかは山行ってやる。供え持って行って、持って帰るから。置いていってもそこで腐るから。言うてん、私、もうやるなって、家で。やるんやったら霊園でやったほうがいいんじゃない？ 絶対来ると思う。

——もう家まで来るかってことですか？ 〈笑い〉

玄：来ない。もう人間死んだらしまいよ。心で生きとる。無理してやるところあるねん。必要ないってそんなん、うん。従兄弟は来るけどね。昔は知り合いもみんな来ていたわけ。今は絶対来ないな。もう10年、15、6年なるんじゃない、亡くなって、うん。もう僕ら、親戚の結婚式にも呼ばれないから、いつ結婚したんか分からへん。

——初めて済州島に戻られたのは、いつですか？

玄：ああ、長男の結婚式。兄貴の長男の結婚式に行ったね。

——そしたら、小学校4年生で日本に渡って、その後は、47年にお母さんと一緒に解放後に済州島に帰ってからは、済州に1回も戻ってきてませんか？

玄：あ、そうそうそう。

——いろいろなところに行かれて、いろいろな仕事をされて、だいたい生活が楽になったなあ、とかいうのは？

玄：今は幸せです、うん。あの心配事がありません。ただね、ぽっくりね、下 [1階] で亡くなったら、誰も、子ども知らんしね。それが一つ。今動いてもね、今正常にまっすぐ歩けるけども、夜中起きたらなんでやろうね。腰曲げて歩けないね。なんか、ものすごい変な、惨めな思いでね、トイレ行ったりね。またおかず作りが大変やねん。私一人やのにね、あんなめんどくさいんやろね。簡単と思ってるのに。ものすごいめんどくさい、おかず作るのは。

——一人で今作って食べてはるんですか？

玄：うん。だから、嫁さん貰おうと思ってる〈笑い〉。

——何か、これだけは最後にお話になりたいこと、ないですか？

玄：僕の誇りはね、仙台にいる時に1年だけ法経専門学校に通ったこと。校長先生は中川善之助先生でね、文化は社会の変遷だと習ったことはよく覚えている。

それと、早く結婚して〈笑い〉。結婚はほんといいもんよ。結婚せなあかん。苦労しても結婚せなあかん。将来、本当にね、結婚したことに感謝せにゃあかんで。わびしいで、夫婦は仲良うせんあかん、本当に。

## 【用語解説】

### \* 9 敵産

「帰属財産」の通称。植民地時代の日本人所有財産を指す。解放後、南朝鮮における「敵産」は米軍政庁が管理していたが、大韓民国樹立後の1948年9月、韓米間で締結された「財政および財産に関する最終協定」により韓国政府に譲渡された。翌49年12月には「帰属財産処理法」が制定され、公共性の高い動産・不動産および企業体などはそれぞれ国有・公有、国营・公営

とされた。その他は民間に払い下げられることとなったが、払い下げ先が決定されるまでは政府が管理し、「敵産」に関する事務は地方税務官署が管掌した。払い下げ価格の低廉さから、「敵産」処理過程での不正や官民の癒着も指摘されている。

#### \*10 李王

1910年の韓国「併合」にともない、大韓帝国皇帝（「併合」時は純宗）は日本によって「李王」と称されることになった。インタビューに出てくる「李王」とは1926年の純宗死後、李王家を継承した純宗の弟・英王李垠（1897～1970）を指している。李垠は1907年の純宗即位と同時に皇太弟となったが、幼くして日本に連れてこられ、韓国「併合」によって「李王世子」とされていた。1917年に日本の陸軍士官学校を卒業、翌18年には「日鮮融和」の象徴として、日本の皇族梨本宮守正の長女・方子と政略的に結婚させられた。東京・赤坂の邸宅（現在のグランドプリンスホテル赤坂旧館）に暮らしていたが、敗戦後の47年に「王族」としての地位を失い、夫妻は63年に韓国へ渡った。妻・方子は韓国で障害児教育などの社会事業に従事したことで知られている。

#### \*11 朝鮮建国促進青年同盟（建青）

解放直後につくられた右派・保守派の在日朝鮮人青年団体。左派を中心とした在日本朝鮮人連盟（朝連）に対抗して1945年11月に東京で結成されたが、その勢力は朝連に遠く及ばなかった。大阪では同じく45年11月に結成された朝鮮青年托進会を母体とし、翌46年2月に建青大阪府本部がつくられ、牟（一説では曹）秉昊が委員長に就任した。その後建青は、やはり朝連に対抗して組織された新朝鮮建設同盟（建同、1946年1月結成）と合同し、46年10月、右派陣営の結集体として在日本朝鮮居留民団（民団、現在の在日本大韓国民団）が結成された。

なおインタビューに出てくる房福男は、建青大阪府本部の前身である朝鮮青年托進会の会長である。また建青大阪府本部に使用されていたという旧朝鮮銀行大阪支店は、大阪市中央区今橋4丁目にあり、中之島の近くではあるが、中之島の中にあるわけではない。中之島には「日本銀行」の大阪支店があるが、建青がこれを使用していたとは考えにくい。